



チーム大蔵

～あいさつ えがお げんき～

大蔵小学校だより

NO. 2

令和3年5月10日(月)

北九州市立大蔵小学校

〒805-0043

北九州市八幡東区

勝山一丁目1-1

TEL (093) 651-0076

《文責》

大蔵小学校 校長 高宮 滋

大成功!!「歓迎集会」1年生(2年生も)おめでとう!!



4月30日(金)2校時、体育館にて1年生歓迎集会を行いました。

・・・その前に、昨年度はコロナ禍のために、入学式・歓迎会などができなかったため、現2年生のために、大変、大変遅くなったのですが、歓迎会を行いました。

司会者が、「2年生は、ステージに上がってください。」と言うと、静かにステージに上がりました。すると、一

人一人に6年生がお祝いのメダルをかけてくれましたね。

2年生のみなさん、遅くなりましたが、「ご入学、おめでとうございます！」

それでは、いよいよ1年生の入場です。39名全員が一人ずつ台の上になりました。6年生のお姉さんが、「お名前を教えてください!」と言うと、みなさん大きな声でお名前を教えてくださいましたね。「〇〇〇〇です。よろしく願います。」と丁寧に挨拶していて、感心しました。

2～6年生のみなさんが出し物を発表してくれて、最後には1年生が歌と踊りを披露してくれましたね。



楽しいひと時を終え、1年生の退場。ということで、1年生が退場し終わると、続いて、2年生→3年生→4年生→5年生が上級生に見送られながら、順に退場しました。これらの様子・姿を見て、大蔵っ子のやさしさ、温かさをしみじみと感じました。2～6年生の皆さん、これからも1年生のお世話をお願いしますね。

6年生の皆さん、日頃からの1年生のお世話、そして歓迎集会の準備等、本当にありがとう。そして、たてわり委員会の皆さん、この集会の企画・運営・進行など、本当にお疲れさまでした。

毎朝気持ちよく・・・大蔵っ子のステキなあいさつ

毎朝正門前で、「大蔵見守り隊」の方とともに大蔵っ子を迎えています。みなさんのステキなあいさつに元気を頂いています。大きな声で、「おはようございます!」とあいさつをしてくれるお友だち。横断歩道を渡り終え、わざわざ私の前で立ち止まってからあいさつしてくれるお友だち。はたまた、「おはようございます!」と言い終わってから、お辞儀をするお友達など・・・。

3月の修了式の日、朝正門前で、「校長先生、おはようございます。1年間ありがとうございました」とあいさつをしてくれたお友だちがいました。

さらに、4月の始業式の日、朝正門前で、「校長先生、おはようございます。1年間よろしくお願いします」とあいさつをしてくれたお友だちがいました。

このような(大人より)立派なあいさつを受け、感心するとともにステキな挨拶ができる人ってカッコいいなあ!と感じる今日この頃です。



大切にしたいものです 「あいさつ・礼儀・作法」

先日、男子ゴルフの海外メジャー大会「マスターズ・トーナメント」での松山選手の優勝が、大きく報道されました。各メディアは、松山選手の優勝を大きく報道していましたが、それとともに松山選手のキャディをしていた早藤将太さんの行動を取り上げていました。



早藤さんは、18番ホールで手にしていた黄色いピンをカップに戻した後、自分の帽子を取り、コースに向かって一礼したのです。さらに、早藤さんは、松山選手の表彰式の間、正座をしていたという報道もありました。これらの行動に各メディアは、「キャディは信じられないほどの敬意を表している」などと、賞賛するコメントが相次いでいました。

日本では、武道をはじめ、様々なスポーツで、相手や審判への礼はもちろん、競技場やピッチへ出入りするときに礼をしたり、コートへ一礼をしたりすることはよく見る光景です。スポーツの場面だけでなく、普段の生活の中でも、互いに礼を交わしたり、礼によって始めたり終わったりと日常の姿でもあります。この度の早藤さんについての報道は、同じ日本人として誇りに思いますし、日本人の礼儀正しさにスポットを当てた報道をととても嬉しく思います。

大蔵小学校では・・・

「あいさつ」を大切にしています。授業の始めと終わりには、子どもたちと教師でお互いに「お願いします」「ありがとうございました」のあいさつを交わし、一礼します。このとき、言葉と礼は別にして行うようにしています。

小笠原流礼法では、一つの所作に一つずつ心を込めるので、お辞儀をしながら「お願いします」と言いません。

相手を敬う気持ちを表すのに、言葉と動作を別にするので、その一つ一つに心を込め、よりその気持ちを表すことになるということです。つまり、始めに言葉で「お願いします」と言い、そのあとに一礼をするのです。

この方が相手を敬う気持ちを表す所作になるのです。

最上級に敬う気持ちを表すには、<礼>→<言葉>→<礼>とするそうです。



子どもが「しゃべる」「話す」「語る」場面の設定を！（大人の務めです）

私たち大人だけでなく、子どもにおいても、おしゃべりが好きでよく話す人、一方、口数が少ない人がいます。一概にどちらが良いとか悪いとかはありませんが、いざ、話さなければならない場面で、固まってしまって話せないのでは困ったものです。

新学習指導要領（授業づくりのバイブル）では、知識・技能だけでなく、それをもとにした思考力・判断力・表現力を高めていくことが求められます。ですから、考えたことを表現する力・伝える力を養っていかねばなりません。〔現在の高校入試問題は、保護者の方々が受けて来られた問題（一問一答式）とは全く異なり、記述式問題が多数出題されています（是非ご覧になってください）〕

私たち教員は、子どもたちがこれらにしっかり対応できる力をつけていくための授業を実践しています。ご家庭におかれましても、お子様が「話す」「語る」「表現する」場面の設定をお願いします。

＜よくしゃべる親としゃべらない子の3つの例＞

- ① 3者面談で、教師が子どもに尋ねているにもかかわらず、親が横からすべて答えてしまう。（話す機会を奪っている）
- ② 親「晩ごはん、何がいい？」 子「・・・」 親「お肉？」 子「・・・」
親「お魚？」 子「・・・」 親「そうだ！ハンバーグにしようねっ！」
→ 考える時間を与えておらず、結局、親が一人で決めている。
- ③ 食事中に、「ママ、お茶！」と言われて、すぐに注いであげている。
→ 「お茶がどうしたの？」と聞き返しましょう。

